

令和5年度 芸術科 書道 I シラバス

科目	単位数	学科・学年・学級	使用教科書・副教材等	担当者
書道 I	2 単位	2 年選択、3 年A選、B選	東京書籍「書道 I」	山城 枝理奈

1. 「書道 I」の目標

書道の幅広い活動を通して、生涯に渡り書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2. 学習計画

学期	学習内容	月	学習のねらい	備考	審査範囲
一学期	1 書写から書道へ ・用具・用材（文房四宝） ・姿勢・執筆法	4	<ul style="list-style-type: none"> 執筆法・用筆法や用具・用材について知り、書道の学習における基本的な事項を理解する。 漢字の成立と変遷について理解する。 臨書の意味や方法を理解し、関連する書道用語について学習する。 漢字の楷書の古典に基づく学習により、書の多様な表現の可能性にふれる。 代表的な古典を鑑賞し、それぞれの古典について作者や時代背景などの知的理解させる。 基本的な点画や線質の表し方と、用筆・運筆の関係を臨書学習により習得させる。 	中学校までの書写の学習で身につけている内容を確認する。 各自の個性を生かすことのできる古典を選択して学習させる。	作品課題提出
	2 漢字の書 ・漢字の成立と変遷 ・楷書の用筆法・結構法 ・唐の四大家（臨書・鑑賞） ・行書の特徴（臨書・鑑賞） ・草書の特徴（臨書・鑑賞）	5 6 7			
	3 実用の書（暑中見舞い）				
二学期	・隸書の特徴（臨書・鑑賞） ・篆書の特徴（臨書・鑑賞）	9	<ul style="list-style-type: none"> 各古典の特徴を把握し表現する方法を学ぶ。 篆刻が芸術作品としての対象となる書の表現のひとつであることを理解させる。 書作品における落款印の効果を理解させる。 姓名印の制作を通して篆刻の手順と技法を習得させる。 仮名の種類、特に変体仮名の種類について学習し、理解を深める。 臨書や鑑賞を通して表現技法を習得し、短冊や散らし書き等の形式についても理解を深める。 	実用性と芸術性という二つの側面を理解させる。 仮名独自の美しさを感じさせる。	作品課題提出
	4 篆刻と刻字				
	5 仮名の書 ・仮名の成立 ・仮名の用具・用材 ・仮名の筆使い ・仮名の単体、連綿、変体仮名（臨書・鑑賞）	10 11			
	6 実用の書（年賀状）	12			
三学期	7 漢字仮名交じりの書 ・創作 ・いろいろな線による表現の広がり ・用具・用材による表現	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> これまでに学習した漢字および仮名の古典の学習をもとに、その表現を応用した漢字仮名交じりの書の創作を行う。 詩文、形式、用具・用材、構成など工夫し、漢字と仮名の調和の方法を考え、自分の感性をどのように表現していくかについて考える。 	1年間の学習のまとめとして自己を主体的に表現することに取り組む。	作品課題提出

3. 評価の観点と方法

【課題・提出物等】

1. 提出前の途中経過を記録としてファイルに綴る。
2. 単元ごとに「学習記録」とファイルをもとに「学習のまとめ」を行い自己評価する。
3. 課題に応じて作品を提出します。創作作品は数時間をかけて完成させる。

【評価】

1. 作品課題提出を中心に、用具・用材の扱いを含めた学習活動への参加の態度などをもとに総合的に評価する。
2. 学期全体の評価提出作品で 80%、「学習記録」と「学習のまとめ」で 5%、学習活動への参加の態度で 15% の配分で行う。
3. 提出作品については、臨書においては対象となる古典の特徴を表現できたか、創作作品においては自分の意図したように表現することができたか、仮名については基本的な用筆が習得できたかが評価の基準となる。
4. 作品課題は学習した古典についての知的理解が主な範囲とする。

【年間の学習状況の評価方法】

- 1 学期、2 学期、3 学期の成績を総合し年間の学習成績とする。